

The Japanese Association for Metastasis Research

NEWSLETTER Vol. 65

第 34 回 学術集会のご案内

第 35 回 学術集会のご案内

寄稿 園下 将大 新理事

(北海道大学 遺伝子病制御研究所)

中山 淳 新評議員

(大阪国際がんセンター研究所)

募集案内

研究奨励賞/女性研究者がん転移研究グラント賞

役員名簿/変更届



日本がん転移学会

URL : <http://jamr.umin.ac.jp>

第34回日本がん転移学会学術集会/総会のご案内

会 期 : 2025 年 6 月 19 日 (木) ～ 20 日 (金)

会 場 : 淡路夢舞台国際会議場

テーマ : がんプロフェッショナルによる転移の Cure と Care”

<https://www.congre.co.jp/jamr2025/>

【プログラム概要】

＜シンポジウム＞

1. がん根治を目指した免疫療法 (公募)
2. がん根治を目指した放射線治療 (指定)
3. がんとの共生 (指定)
4. 転移を制御する創薬研究 (公募)

＜ワークショップ(口演)＞

- ・転移とバイオマーカー
- ・転移に対する薬剤・放射線耐性
- ・転移とがん免疫
- ・生体材料を用いた転移の診断・治療
- ・転移の実験モデル
- ・転移の分子基盤と細胞特性
- ・転移と微小環境
- ・(臨床演題) 転移を制御する臨床試験/共有すべき治療成功例

総会事務局

大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 生体病態情報科学講座 分子病理学

第34回総会運営事務局

株式会社コングレ 関西 MICE 事業部

〒530-0005 大阪市北区中之島 4 - 3 - 51

Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター11 階

e-mail : jamr2025@congre.co.jp

第35回日本がん転移学会学術集会・総会のご案内

会 長 : 二口 充 (山形大学医学部 病理学)

会 期 : 2026 年 7 月 2 日 (木) ～ 3 日 (金)

会 場 : 山県テルサホール (JR 山形駅から徒歩 5 分)

寄稿： がんの制御を目指して

新理事 園下 将大（北海道大学 遺伝子病制御研究所 がん制御学分野）

このたび、伝統ある本学会の理事に任じていただき、大変光栄に存じます。まだまだ未熟者ではございますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

私は幼少期より、生物の巧妙な成り立ちや、怪我や病気を治す人体の不思議な力に興味を抱き、疾患研究や創薬の道を志して東京大学薬学部に進学しました。特に関心を持ったのががん研究であり、武藤誠教授が取り組まれていた大腸がんの発生機序研究に惹かれ、同研究室で卒業研究を行いました。ここで、間質細胞に存在する COX-2 が産生するプロスタグランジン E2 (PGE2) が大腸良性腫瘍の発生に不可欠であることを発見しました。初めて筆頭著者としてこの成果を論文発表できたのは非常に大きな喜びで、また、がんの研究において個体レベルの解析が重要であることを学べたのも貴重な経験となりました。

修士課程が終了するタイミングで、武藤先生が京都大学大学院医学研究科へ異動されることとなり、博士課程で京都への研究室引越しを経験しました。京都大学では、がん患者を死に至らしめる極めて重大な要因はやはり転移であるとの認識から、その機序解析に注力することとなりました。その結果、Notch 経路を抑制する *Aes* を大腸がんの転移抑制遺伝子として見出し、さらに Notch が ABL を介して RhoGEF タンパク質 TRIO をリン酸化することで腫瘍細胞の運動能を高めること、そしてリン酸化 TRIO が大腸がん患者の予後予測マーカーとなることなどを報告しました。他臓器との関わりをより深く解析する必要があるがん転移は研究テーマとして大変魅力的で、この時期に日本がん転移学会へ入会しました。学部時代に講義を受け、廊下で気軽に立ち話に応じてくださっていた本会名誉会員の入村達郎先生にも本会で再びお目にかかることができ、現在に至るまでご指導を賜っていることは大変幸運なことと思っております。

博士課程を修了したのち、同研究科で准教授まで務めましたが、創薬研究をさらに加速したいと願い、2013 年にニューヨークのマウントサイナイ医科大学に留学し、Ross Cagan 教授のもとでショウジョウバエを活用したがん研究を開始しました。3 人の幼児を連れての 5 年間の留学は、早口の英語や高い物価など苦労も多かったのですが、この留学中の 2014 年に、前述の転移機序の研究成果を評価いただき、本会の研究奨励賞を受賞するという大変な栄誉を賜りました。これが大きな励みとなり、ショウジョウバエ遺伝学と計算化学を融合し、既存のキナーゼ阻害薬の毒性を軽減することで治療域を拡大する新たな創薬手法を確立することができました。

その後、日本でのポジション探しに非常に苦労したものの、幸いにも現在のポジションを得て研究室を立ち上げることができました。がんを制御可能な病気にすることを目指し「がん制御学分野」と名付けたこの研究室では、哺乳類実験系とショウジョウバエを相補的に活用し、引き続きがんの本態解明と創薬研究を推進しております。これまでの成果は、複数の実験系を連動させた異分野の融合によって生まれたものです。近年、オミクス解析や AI 技術など新しい方法論が目覚ましい発展を遂げ、生命科学の研究手法は大きく変わりつつあります。こうした革新技術を活かしながら、がんの悪性化に関わる分子機構の解析と制御法の開発を一層加速すべく、本学会においても異分野融合を促進する場を築き、学会のさらなる発展・飛躍に貢献していきたいと考えております。微力ながら全力を尽くしてまいりますので、先生方のご理解とご支援を賜ることができましたら大変幸いに存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

寄稿： がん転移学会と若手研究者のこれから

新評議員 中山 淳（大阪国際がんセンター研究所 腫瘍増殖制御学部）

同じ研究所内にある転移学会事務局の長谷川さんより、急遽、寄稿文執筆の依頼をいただきました。締切まで5日ぐらいしかないとのことで、過去の寄稿文を眺めながら何を書こうか悩んでおりました。これまでの経歴や日常のこと、がん転移学会での思い出を書かれている先生が多かったのですが、まだ語るほどの経歴もありませんので、最近よく考える、若手研究者の現状とこれからについて、書いてみようかと思えます。

実際のところ、博士号取得後の進路としてアカデミアを選択する若手研究者の数は激減しております。昔は博士号を取っても食えないと言われていたようですが、私が学位を取得する少し前ぐらいから（2019年学位取得）、博士新卒の就活事情が大きく変わったことが要因かと思えます。製薬企業、医療機器関連企業、バイオ系ベンチャー企業など近い業界だけでなく、大手商社や飲食関連企業であっても現在は就職できており、博士卒が活躍できる場が用意されている時代です。一方で、アカデミアの現状を見てみると、若手研究者の研究費事情については多少改善されているところもあるようにみえますが、給与・福利厚生を始めとする待遇面では改善できているとは言い難い状況だと感じています。少子化で博士号取得者の母数も減っており、若手研究者が減っている現状も納得がいくものです。

海外留学についても思うところがあります。シニアの先生方に、必ず留学はするべきだ、博士号を取ったらすぐに海外へ、と博士取得後の進路を考える時期に助言をいただきます。たしかに、語学を学び、研究者ネットワークを広げ、見聞を広めるという意味では、現在も留学に意味はあると思います。しかし、WEBを開けばタイムラグなく最新の論文を読むことができ、論文になっていない情報はSNSで直接海外研究者とやり取りして収集し、海外の研究者とオンラインで共同研究を行う。また、YouTubeで海外の講義や実験手技を学び、時間がなければ知りたい情報をAIにまとめてもらい、AIと英会話する時代です。留学の意味がぼやけてしまっている現実が、たしかにあると思います。そして、いざ海外に飛び出したとしても、留学後、国内に帰って来るためのポストが少ない。世界情勢が不安定な現在、積極的に留学する若手研究者が減少している現状は、十分に理解できます。私も海外学振を利用して外に出ようかと考えた矢先に、ウクライナ情勢の悪化、物価高・円安が進行しました。海外学振の奨励金だけでは生活すら難しい国や地域もあり、家庭の事情もあって、留学を見送っています。

つらつらと思うところを書いておりますが、このような現状であっても、国内アカデミアに残っている若手研究者はそれなりにいるわけでありまして。（私を含め）彼ら彼女らがアカデミアを選んだ理由を問うてみると、純粋に「サイエンスがおもしろい」ということに尽きるのではないかと思います。これだけは昔から変わらない共通項ではないでしょうか。となると、若手研究者を増やすためには博士号取得後の進路を考える大学院生時代に、「サイエンスは面白い」と心の底から思ってもらう必要があるわけです。どうすればよいのか答えは出せておりませんが、大学院教育の重要性を再認識しております。また、私も様々な学会に参加しておりますが、研究テーマのマンネリ化とでも呼べばよいのでしょうか、どこかで聞いたような研究テーマだな、と思うことが多々あります。「こんな発見があるのか」、「こんなサイエンスがあったのか」、と心の底から面白いと思えるサイエンスに出会える機会はそう多くありません。この情報社会、様々な分野の論文に対して簡単にアクセスでき、多様な研究を簡単に知ることができる弊害だと思います。学会は様々な意味や役割を持つ場所ですが、もっと純粋にサイエンスを楽しむ場であるべきではないか、と自戒も含めて、考えている最近です。

昨年、日本がん転移学会の評議員に選任いただきました。現評議員の中で最年少（おそらく歴代でも最年少）とのことで、若手研究者としてがん転移学会にどう貢献できるか、考える機会が増えております。結局、周りの若手研究者に転移研究の面白さを伝えて会員を増やすこと、若手のコミュニテ

ィをきちんと維持すること、ぐらいいか思い浮かばないのですが。私が定年を迎えるまで、(定年が65歳だとすれば) まだ30年以上あります。この年月が長いのか短いのか、実際にやってみないとわからないのですが、微力ながらも日本がん転移学会の活性化と発展に貢献できるよう務めていきたいと思っています。

日本がん転移学会研究奨励賞

<http://jamr.umin.ac.jp/research/index.html>

本賞はすぐれた研究業績を発表した本学会会員若干名に対して、
選考の上、本学会学術集会において授与する

- ・受賞候補業績の範囲は、原則として本学会において発表された業績として、
本学会会員により応募されたものとする。
- ・受賞候補業績は、将来の発展が期待される若手研究者(応募年度の4月1日現在
43歳以下)によるものとする。
- ・研究奨励賞受賞者数は単年度2名程度を原則とする。
- ・研究奨励賞の賞金(奨励研究費)は1件20万円とする。

日本がん転移学会女性研究者がん転移研究グラント賞

<http://jamr.umin.ac.jp/research/05.html>

本賞はがん転移研究の将来の担い手を目指す女性研究者の
キャリアアップを支援することを目的とする。
本賞は日本がん転移学会田中紀子功労会員より寄贈され、
賞状ならびに賞金(研究費)をもってこれにあてる。

- ・応募時点で日本がん転移学会会員であり、助成対象期間中も会員であること
- ・助成対象期間中にがん転移研究に従事する女性研究者であること
- ・女性研究者がん転移研究グラント賞受賞者数は毎年1名程度を原則とする
- ・女性研究者がん転移研究グラント賞の賞金は合計50万円までとする

両賞の募集期間：毎年 4月1日～9月30日

募集要項・申請書等については、事務局までメールでお問い合わせください

◆事務局◆ E-mail: jamr2021-office@umin.ac.jp

会則・役員選定規定につきましてはホームページを参照下さい

日本がん転移学会役員

理事長：	土岐 祐一郎			
会長：	山本 浩文（第34回）			
副会長：	二口 充			
前会長：	吉治 仁志			
理事：	園下 将大	瀧口 修司	早川 芳弘	福島 剛
	溝上 敦	三森 功士	エーザイ(株)	
監事：	海野 倫明	大鵬薬品工業(株)		
評議員：	青木 正博	足立 靖	有明 恭平	石井 秀始
	泉 浩二	板野 直樹	伊藤 心二	稲田 全規
	井上 正宏	猪原 秀典	上北 尚正	上原 久典
	江口 英利	大島 正伸	大塚 英郎	岡田 太
	沖 英次	尾崎 充彦	掛地 吉弘	鍛冶 孝祐
	加藤 靖正	加藤 幸成	亀井 尚	唐澤 秀明
	川田 学	神田 光郎	菊池 寛利	北川 透
	北川 雄光	北台 靖彦	口丸 高弘	国安 弘基
	限元 謙介	五井 孝憲	小泉 桂一	越川 直彦
	粕 雄一朗	堺 隆一	坂本 修一	坂本 毅治
	佐藤 慎哉	清水 史郎	下田 将之	高野 重紹
	高橋 剛	高橋 秀典	高橋 広城	滝野 隆久
	竹内 裕也	竹田 和由	田中 晃司	田中 美和
	谷口 博昭	中 紀文	中川 圭	長野 一也
	永野 浩昭	中山 淳	西岡 安彦	野田 剛広
	東 伸昭	筆宝 義隆	樋田 京子	藤田 直也
	藤原 俊義	藤原 義之	星野 大輔	増田 慎三
	松尾 洋一	水間 正道	宮田 博志	望月 早月
	森 誠司	八代 正和	安田 卓司	安本 和生
	矢野 聖二	山口 英樹	山本 博幸	山本 真義
	由井 理洋	渡 公佑		
				(アイウエオ順)
事務局幹事：	大植 雅之			
		評議員任期：2024年6月29日～2027年/第36回総会まで（第34-36回）	評議員年会費：10,000円	

日本がん転移学会 名誉会員・功労会員

名誉会員：	愛甲 孝	入村 達郎	太田 哲生	高後 裕
	小林 博	今野 弘之	済木 育夫	佐藤 博
	清水 英次	清木 元治	曾根 三郎	谷口 俊一郎
	田原 榮一	夏越 祥次	新津 洋司郎	宮坂 昌之
	安井 弥	横田 淳	渡辺 寛	
功労会員：	伊藤 壽記	伊東 文生	岡田 保典	小野 真弓
	垣添 忠生	片岡 寛章	神奈木 怜児	久保田 俊一郎
	桑野 信彦	小林 浩	佐治 重豊	清水 暁
	高橋 俊雄	竹之下 誠一	竜田 正晴	田中 紀子
	茶山 一彰	寺田 雅昭	中津川 重一	中森 正二
	中山 淳	西村 行生	宝来 威	細川 真澄男
	松浦 成昭	宮城 妙子	宮崎 香	向田 直史
	森 正樹	矢野 雅彦	矢守 隆夫	渡邊 昌彦

日本がん転移学会 物故役員

物故顧問：	菅野 晴夫	杉村 隆	明渡 均	
物故名誉会員：	佐藤 春郎	末舛 恵一	田中 健蔵	塚越 茂
	鶴尾 隆	螺良 英郎	中村 久也	磨伊 正義
	門田 守人	Isaiah J. Fidler		
物故功労会員：	東 市郎	阿部 薫	尾形 悦郎	北島 政樹
	久保田 哲朗	豊島 久真男	馬場 正三	武藤 徹一郎

日本がん転移学会事務局 宛

Fax : 06-6945-0355

日本がん転移学会連絡用紙

日本がん転移学会会員の種々の変更・退会等の連絡はこの用紙をご利用ください。
会員番号(郵便物の宛名ラベルに印刷してある貴氏名の右下の数字)、並びにご氏名(フリガナ)を明記の上、
変更したい事項をご記入いただき、封書またはFax、E-mailにてご連絡ください。

年 月 日

住所等変更 ・ 退会 届

(上記、どちらかを○で囲んでください)

(フリガナ)			会員番号		
氏 名			生年月日		
勤 務 先	勤務先名称(部所属も記入してください)				
	〒				
	Tel		Fax		
	E-mail				
自 宅	〒				
	Tel		Fax		
	E-mail				
	雑誌等送付先を○で囲んでください。 勤務先 ・ 自宅				
変更年月日 西暦 年 月 日 付で変更します					
退 会 届 西暦 年 月 日 付でもって退会します					
その他					

※個人情報について

会員への連絡、会誌等の発送等、学会活動の目的に限定して利用します。

=====

[発行・編集]

日本がん転移学会事務局

Tel/Fax 06-6945-0355 (直通)

E-mail : jamr2021-office@umin.ac.jp

〒541-8567

大阪市中央区大手前3丁目1番69号

大阪国際がんセンター・研究所内

=====